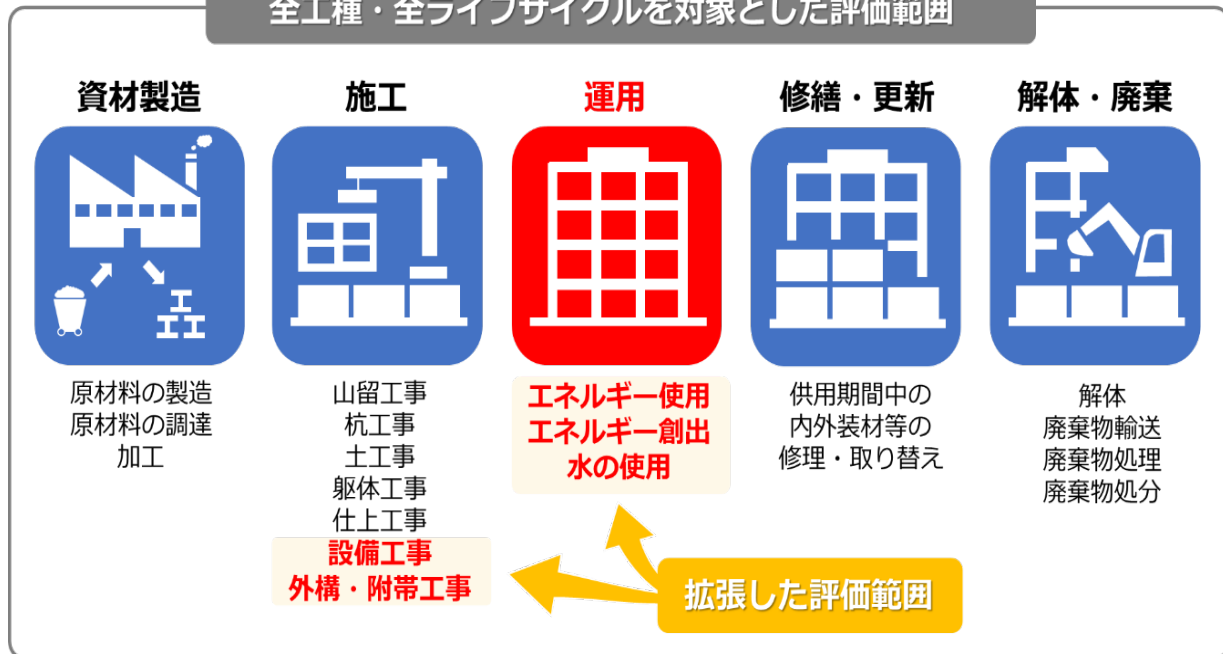


## 安藤ハザマの建物LCAの概要

### 概要

安藤ハザマは、建築物を一製品と捉え、環境製品宣言（EPD）を活用してCO<sub>2</sub>をはじめとするあらゆる環境影響を算定・評価・情報開示できる仕組みを確立しました。これは、安藤ハザマが推進してきた実建物のカーボンフットプリント（CFP）算定手法を拡張させたもので、評価目的に応じて従来どおりのCFPによる温室効果ガスの評価・情報開示と、EPDによる多面的な環境影響評価・情報開示を選択できます。

#### 全工種・全ライフサイクルを対象とした評価範囲



#### LCA評価の現状

- ◆ 業界統一的な算定ルールがない
- ◆ 設計者にLCAの知見がない
- ◆ どこまで細かく試算するか等  
依頼者、実施者の考え方による

物件毎の評価が難しい

#### 安藤ハザマのLCA

- ◆ ISOに準拠した統一的な試算
- ◆ 積算・設計情報に基づく自動計算  
プログラムの活用
- ◆ 第三者認証型環境ラベル（EPD）  
認定による信頼性・透明性確保

物件毎の評価の仕組みを確立



SuMPO環境ラベルプログラム  
Japan EPD Program by SuMPO

EPDはISO14025に準拠し運営される製品環境情報の検証・開示の国際的な枠組みです。日本国内では、一般社団法人サステナブル経営推進機構の「SuMPO環境ラベルプログラム」によりエコリーフの名称でEPDが運営されています。

# 実建物のホールライフサイクルアセスメントの検討と環境製品宣言(EPD)の取得



## 実建物でのカーボンフットプリントとエコリーフ認定取得事例

### カーボンフットプリントとエコリーフ認定取得事例

✓ 公式ルール  
で算定  
(ISO に準拠)

✓ 情報の公開  
(第三者性  
結果の見える化)



エコリーフ  
製品環境情報  
<https://ecoleaf-label.jp/>  
建築物において  
**国内初!**



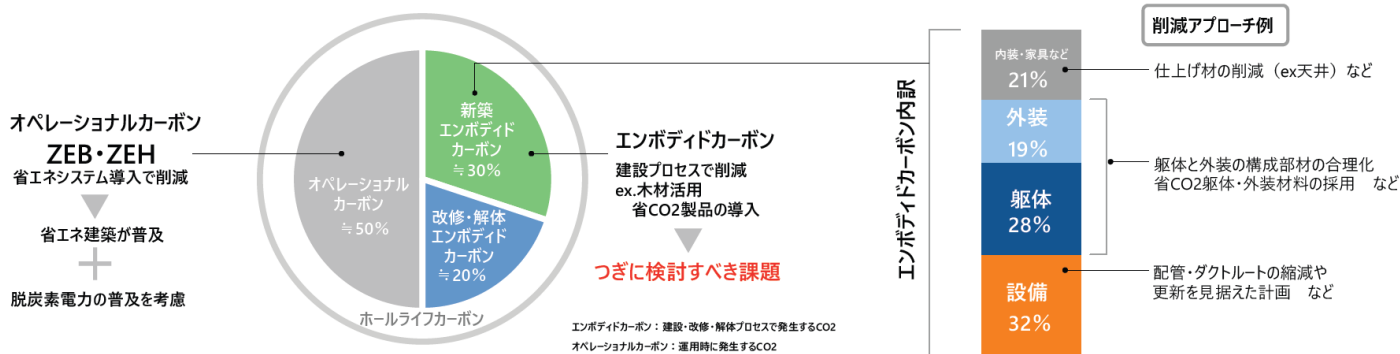
安藤ハザマ東北支店ビル



カーボンフットプリント

2種類の環境ラベルを同時取得

### 環境影響の見える化と削減アプローチ



安藤ハザマでは、CFP評価で培ったライフサイクルアセスメント (LCA) 手法によって、CO<sub>2</sub>だけでなく様々な環境影響を評価できます。製品やサービスの環境負荷の「見える化」でSDGsに貢献します。

